

町営墓地および納骨堂の計画は

慎重に協議

問

激変する社会情勢や新たな潮流に対応するため、的確な課題の把握と解決に向けた選択、集中による施策を展開されておられます。現在、少子高齢化が進んでおり、本町でも例外ではなく、5人に1人が高齢者となっています。子どもたちも就職等であるさとを離れ、その地で新しい家族を形成し、なかなか、ふるさと

とに戻ることが減少しているのが現状です。

放置されている先祖代々の墓が多くなっています。共同墓地の管理においても高齢化が進み、年々厳しくなっているのが現状です。

答 平山地域振興課長
須恵町の墓地のほとんどが、昭和23年の法施行以前から開設されている「みなし墓地」です。みなし墓地には、地域の共同墓地、宗教団体などの共同墓地、個人墓地の3種類があります。墓地の集約は理想ではありますが、仮に町営の墓地や納骨堂を開設したとしても、先祖代々受け継いでこられた場所から簡単に移す

一昨年、私が構想する墓地霊園事業を実施している横浜市を議会で見学されました。議員各位もこの方法なら良いのではないかとご理解いただいたと思います。

町が墓地霊園事業を推進するに当たり、高齢化にともなう町民福祉事業とするか、ある程度費用が回収でき、継続的な町財政負担がない収益事業とするか、2つの方法があると思います。町民福祉に向けての墓地霊園事業への財政投資は、今は、なかなか難しいかと思えます。また、収益事業として考えた場合、慎重にしないと、財政破綻につながる危険な事業であると思われ



猪谷 繁幸 議員
(写真はアクリル板を通してため不鮮明になっています)

○「問」については、議員が提出した要約文のとおり掲載しており、編集は行っていません。

答弁中の平松町長



ここが聞きたい！

一／般／質／問

○一般質問とは、議員が町長など執行機関に対し、町の行財政全般について疑問点をただし、報告や説明を求めることです。

まちづくり

平松町政の成果と今後の展望は

将来人口3万人を見据えて

問

平成30年5月に平松町長が就任して早くも来春には1期目の節を迎えます。前中嶋町政を引き継ぎながらも新たな政策を起し、町長が課題としていた「稼ぐ力」もよい形になりつつあります。コロナ禍にも関わらず、財政調整基金等の合計額は28億円を超え、人口も2万9千人台に達しました。

しかしながら、温暖化による災害の多発、少子化・高齢化・格差の拡大が進む社会状況は、須恵町も例外ではありません。

ここで伺いますが、町長は、これからの須恵町の課題はどこにあり、どういう舵取りが必要とお考えでしょうか。

答 平松町長

須恵町の将来人口3万人を見据えて、インフラ整備を行うことはもちろんのこと、教育、福祉対策もさらに充実させる必要があると思っております。そして、今まで以上に、ハード面での財政負担が伴う事業も予想されます。これらは、議員各位にお諮りしながら実施せざるを得ない事業でありますので、ご協力をお願いいたします。

今後については、まだまだ実施すべき事業（宿題）や喫緊の課題も多く、1期目で投げ出すのはいかがかと思えます。こればかりは、地元の後援会もありますので、そちらに諮り、ご意見を聞いたうえで、議会に報告したいと思います。



田ノ上 真 議員
(写真はアクリル板を通してため不鮮明になっています)